（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和６年４月 24 日

県立追浜高等学校長（定時制）

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和2年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 25 日実施）	総合評価（４月 24 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学習意欲を向上させ、基礎的・基本的な知識の習得ができる教育課程の編成に取り組む。 ②学び直しや生徒が互いに学び合う学習活動を取り入れるなど、知識・技能の習得のみならず、それらを活用する力を育む魅力ある授業を展開する。	①学期ごとの中間評価を行い、生徒が自らの学習を振り返り、主体的に学べるようにする。 ②習熟度別学習やＴＴにより、生徒一人ひとりのニーズに応える授業を行う。 ②「聴く力」を高める取組を継続し、自分の考えを表現する力を育成する。	①科目ごとに、単元のまとまりなど、評価時期や方法を工夫して中間評価を実施する。 ②中間評価等を利用し、生徒の学習状況を正確に把握し、授業改善に取り組む。 ②集会や講演会などでの取組を継続する。	①自分の学習についての態度が改善されたか。 ②生徒の授業に対する満足度が上昇したか。 ②自分の考えをまとめて表現する場面がこれまで以上に設定できたか。	①中間評価を行うことにより、学期の途中で自分の学習への取組を振り返り、改善に繋げることができた。 ②授業評価の結果から、生徒のニーズに応える授業が展開できていることが読み取れた。 ②授業のみならず、始業式や終業式においても「聴く力」を育む取り組みを継続し、自分の考えをまとめる機会を作った。	①義務教育時代に不登校を経験した生徒も多く、特に新入生は夜の学校生活に馴染めるかが大きなポイントとなる。 ①学校に登校し、授業を受けている生徒の取組は非常に良い。 ②中学校の内容が十分に理解できていない生徒も多いため、習熟度別授業については引き続き実施したい。 ②視覚的な支援が有効な生徒も多いため、ＩＣＴ機器の利活用についてもさらに広げたい。	①義務教育時代に不登校を経験した生徒が多く、毎日通学すること、環境に馴染めることが課題である生徒が多いが、一人ひとりに寄り添った指導をして頂いた。 ①中間評価や習熟度別学習についての先生達の努力と実践に感謝する。 ②成績レベルを含め、高校に入学するまでの過程や環境が非常に多様な生徒達に適した教育・指導を行って、基礎・基本的な知識を習得させるのは、大変な苦労を伴う作業だと推察する。 ②着実に効果が表れている結果と思います。今後も聴く力の醸成に心がけ、取組みを推進して欲しい。	①科目ごとに評価方法や時期を設定し、生徒が単元ごとの学習の振り返りを意識できるように導くことができ、自己の学習態度も見直す機会と改善に結びつけた。 ②習熟度別学習やＴＴによる授業展開など生徒の学習支援を効果的に行うことができた。生徒による授業評価を検証し、今後の授業展開と授業改善が課題である。 ②「聴く力」の継続的な指導により、生徒自身が重要性を認識し、傾聴する態度に変化が現れるとともに、積極的にレポートにまとめる取組みなど着実な効果があった。	①教科や科目ごとに、生徒の学びの意欲を引き出す内容や課題になっているかを検証し、自ら学ぶ力を身に付けさせ、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す。 ②担当者間での授業展開の工夫や指導方法を共有し役割分担を明確するなど、授業展開が適切かなど検証する。 授業改善方法として、わかりやすい授業の展開や ICT を活用した授業づくりについて、教員間で授業力向上を目指す。 ②「聴く力」の育成効果は現れている。さらなる発展的な育成に向けた段階的な指導方法を模索していきたい。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえ生徒と向き合い、生徒から信頼される指導・支援を行う。 ②学校行事や部活動への積極的・主体的な参加を促進し、自己効力感を高め、他者尊重に基づく規範意識を醸成する。	①生徒一人ひとりの状況把握を適時に行い、情報共有に基づく支援を組織的に行う。 ②学校行事や部活動への参加を通じて、自他ともに尊重することや、対話による課題解決の経験を重ねる。	①生徒一人ひとりの状況把握のために定期的な情報共有を継続的に行う。また、必要に応じて支援検討委員会や外部機関との連携を通して支援の充実を図る。 ②学校行事や委員会活動等において、生徒会を中心とした主体的かつ協働的な取組みを推進する。 ②部活動への積極的な関わりを通して、自己肯定感と協調性を育む。	①生徒一人ひとりの状況把握のために定期的な情報共有を行うことができたか。 また、支援の充実のために外部との連携を適切に行うことができたか。 ②生徒が学校行事や部活動等に主体的かつ積極的に関われたか。また、取組みを通して、自己効力感や自己肯定感、他者を尊重する意識の向上を図ることができたか。	①毎月定期的に生徒の情報共有会を行い、問題行動の未然防止等を的確に対処することができた。 ①支援が必要な生徒に対し、校内の支援体制の整備、外部機関との連携を図り、的確な対応を行うことができた。 ②生徒会を中心に、学校行事や委員会活動等に主体的かつ協働的に取り組み、多くの成果を上げた。 ②生徒が積極的に部活動に参加し、活動を活性化させることができた。 ②生徒は学校行事や部活動等に主体的かつ積極的に関わった結果、自己効力感や他者を尊重する意識の向上を図ることができた。	①一人ひとりの生徒との信頼関係を築くために、生徒の言動の変化により一層注意して丁寧に指導すること、よりきめ細かく対応することで問題行動の未然防止に務める。 ①生徒の家庭環境を的確に把握したうえで、引き続き校内の生徒支援体制及び外部との連携を充実させ迅速な対応を行う。 ②本校に入学する生徒の社会性向上のため、今後も学校行事や委員会活動、部活動等を通して、自己肯定感・自己有用感を醸成し、自己効力感を高め、他者を尊重する意識の向上を図る。	①様々な悩みを抱えている生徒も多いと思います。今後も常に寄り添い、きめ細やかな生徒支援体制の充実を期待しています。 ①家庭環境に課題がある生徒に対して、担任だけではなく、学年問わず教員が対応している。 福祉制度につながっている家庭もあるので連携できると望ましい。 ②日頃からの生徒との信頼関係をベースに、毎月の情報共有会を通じ、問題行動の未然防止に努め、必要に応じての支援は今後も継続して欲しい。学校行事等への主体的な参加を通じての自己肯定感の醸成は、今後の社会人としての生き方に力になると考える。	①職員間による定期的な生徒情報共有会により、すべての教職員が生徒個々の情報を適切に理解し、個別生徒指導と支援体制を確認することで、問題行動等の未然防止につながった。 ①特別な教育的支援が必要な生徒や家庭環境等に配慮が必要な生徒支援に対して、外部専門機関と連携しながら支援体制を構築させることができた。 ②生徒会役員との連絡を密に行い、生徒が主体的に行事に取り組めるように支援することで、主体的かつ協働的な活動ができた。今後も生徒の自己効力感を伸ばして行事をより良いものにしていきたい。	①職員全体で生徒個々に応じた支援策や教育的ニーズを理解する必要があると考えられる。研修等により生徒支援の基礎的な知識・技能の向上を目指すことも検討したい。 ①外部機関との連携では、支援が必要な生徒に対して、専門的な立場から具体的なプログラムが効果的なものかを深く検証して頂き、助言を求めたい。 ②生徒会役員は自主的な活動ができるようになってきているので、他の生徒も自主的な活動に取り組むような内容に導き、自己肯定感を高める活動を検討したい。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 25 日実施）	総合評価（４月 24 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの自己実現を目指した体系的なキャリア教育を推進する。	○社会の中で、より良く生きる力を、在学中に身につけられるよう、組織的な対応を行う。	○外部関係者を活用し、進路に関する説明会や会社見学などを計画的に実施する。 ○キャリア・パスポートを活用する。	○進路を決定して卒業する生徒の割合が増加したか。 ○キャリア・パスポートを活用することができたか。	○キャリア・パスポートなどを活用しながら、ほぼすべての生徒が進路を決定して卒業することができた。 ○追浜工業会との連携による講演会の計画を進めた。次年度は実施ができる見込みである。	○４年生のキャリアについて学ぶ時間などを活用し、早い段階から自分の進路を見つめる機会を増やす。 ○追浜工業会と連携し、実社会のことについて知る機会を増やす。	○ほぼすべての生徒が進路を決定し、卒業できたことは最大限に評価できることと考えます。今後も生徒が主体的に進路を考えていけるような環境づくりに努めてほしいと思います。 ○令和５年度は追浜工業会の組織的対応が未整備で間に合わず企業説明会等が実現出来ず大変申し訳ない。次年度は実現出来る様努力したい。	○キャリア・パスポートを有効的に活用したことで、多数の生徒が卒業後の進路を決定することができた。現代社会の急速な構造の変化や働き方が多様化している社会での進路指導が課題となる。 ○追浜工業会との講演会実施には至らなかったが、地域企業との連携活動やインターンシップ等による生徒の職業観育成の理解や認識を共有できた。	○卒業後の進路先への指導だけでなく、人間関係形成能力・将来設計能力や自身の個性や適性について考える指導を立案するとともにキャリア教育の充実を目指す。 ○追浜工業会の担当者との連携を密にして、生徒の職業観意識向上に向けた段階的な取組みを構築する。
4	地域等との協働	学校行事や地域貢献活動を通し、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。	○学校行事や授業公開などにより、追定の魅力を積極的に外部に発信する。 ○可能な地域貢献活動を行うとともに、地域・外部資源の活用を推進する。	○ＰＴＡと共催の授業公開及び中学校教員対象の授業公開を行う。 ○学校紹介動画を作成し、中学校へ配付する。 ○地域とのかかわりや外部資源の活用を通して、地域との連携を深め、貢献を体感できる活動を行う。	○授業公開などにより、中学校や保護者との連携が深まったか。 ○生徒の教育活動を発信することができたか。 ○地域との連携を深め、貢献する活動を行うことができた。	○本年度も中学校の先生方へ学校紹介動画の紹介とともに、授業公開の案内を行った。 ○授業公開の参加者はいなかったが、定時制の良さについては十分伝えることができた。 ○文化祭やマラソン大会等の行事においてＰＴＡと共催の取組みを行うことができた。 ○地域のごみ拾いや追浜駅前広場のプランター設置等を通して、地域との連携を深め、地域に貢献する活動を行うことができた。	○次年度は生徒支援グループとも連携し、多くの生徒に参加してもらいながら学校紹介動画の作成を行う。 ○中学校の進路担当の先生を中心に、授業公開の案内を行う。 ○役員不足が課題であるが、様々な機会を通して会員との意思疎通を図るとともに、ＰＴＡ活動の精選、取組みの充実に取り組む。 ○校内外の行事を充実させ、保護者や地域の方々との連携や外部資源の活用を進め、地域連携を強化する。	○中学校の先生への夜間定時制の学びの特長である少人数で丁寧な対応などのメリットをぜひご案内いただきたい。 ○地域のごみ拾いや追浜駅前広場等での整備・清掃活動など地域貢献は良かった。今後も地域との一体感を継続して欲しい。 ○コロナ禍で出来なかった事業やイベントなど通常に戻り、新しい形での地域との接点を考えて頂きたい。また新たな視点での連携活動などにも期待します。	○中学校への広報活動として学校紹介動画の配信は、本校定時制のメリットや校内の様子を適切に伝えることができた。授業公開の参加者募集に係る広報活動が課題である。 ○学校行事ではＰＴＡ役員不足という課題の中で、役員間との連携と意思疎通を図り、ＰＴＡとの共催により円滑に運営することができた。 ○追浜駅前広場の整備や地域清掃活動等、地域とのつながりを意識した活動を深めることができた。	○中学校教職員への定時制実情を周知する広報活動を模索する。公開授業の日時など具体的に考えていきたい。 ○少子化の進展、共働き世帯の増加、価値観の多様化など、ＰＴＡ活動を取り巻く環境は年々厳しくなってきている。時代に即した必要とされるＰＴＡ活動を検討していきたい。 ○地域連携を引き続き継続し、意見交換の場を設定するなど関係強化に向けた新たな取組みの設定も考えたい。
5	学校管理 学校運営	①生徒の安全・安心が確保された、信頼される学校づくりを進める。 ②ﾜｰｸ･ﾗｲﾌ･ﾊﾞﾗﾝｽを中心とした働き方改革を実現し、事故・不祥事のない、信頼される学校づくりを進める。	①生徒・保護者への丁寧な対応、事故防止の徹底、適切な情報提供により、安心安全な学校づくりをする。 ②不祥事防止の徹底とともに職員の働き方改革を実現し、職員が心身ともに充実して生徒の指導支援を行う。	①生徒の安全・安心が確保されるよう防災備品を整備管理し、防災訓練を通して、防災意識を高める。 ②不祥事防止と効率化を目指した業務改善をする。	①防災訓練を定期的かつ効果的に行い、防災意識を高めるとともに、防災備品の整備・管理が確実にできたか。 ②不祥事防止会議の内容と職員の意識の向上と効率化を目指した業務改善ができたか。	①巨大地震・津波など大規模災害から自らの判断で自らの安全を確保できるようになるために、防災訓練を２回実施し、防災意識の向上を図った。 ①防災備蓄品の使用期限と個数の確認を行い、次年度の購入計画を検討した。 ②不祥事防止研修会を毎月実施し、職員が講師を務め意識の向上ができた	①巨大地震・津波など大規模災害時における、避難場所の確認、対応の仕方等について、防災訓練等の防災教育を通して意識を高める取組みを継続的に行っていく。 ①防災備蓄品の管理を全日制と連絡を取り確実に行うとともに備品の充実を図っていく。 ②コロナ前の業務を復活する際に業務の精選を行い業務の効率化を図っていく。	①防災訓練は必要で大切な訓練であるが、ともすると定型的に流れる可能性もある。常に実際に動けるかどうかチェック確認し臨場感を持って行って欲しい。 ②不祥事防止に向けて、職員が健康で安定した生活を送れるよう、引き続き校内における長時間在校者へのメンタルサポートの充実に努めてほしい。	①大規模災害時における防災訓練を繰り返し実施し、避難場所の確認や対応方法、自らの安全を確保する防災意識を育成する訓練ができた。 ①防災備蓄品に係る調達管理を全日制と情報共有を行い、災害に備える体制を整えることができた。 ②不祥事防止に向けて、全職員が研修講師を務め、公務員としての使命や誇りを再認識させる取り組みができた。	①南海トラフに関連した大地震が想定されることもあり、具体的な災害を想定し、生徒一人ひとりが防災意識を高める訓練を検討する。 ①喫食訓練用防災備蓄品を使用した訓練など防災意識を高める方策を講じる。 ②働き方改革のさらなる推進を目指すために、職員の意見を聞きながらワーク・ライフ・バランスを中心に考える策を検討していきたい。